

特定非営利活動法人ほっぷの森
2021年度 事業報告（総括）

2021年度も、前年度と同じようにコロナ感染症拡大のために様々な影響を受けざるを得ませんでした。

その大きな影響の中、スタッフもパートナーも自分たちの活動を維持し、コントロールすることができたと考えています。

各事業所ともそれぞれの事業を継続し着実に活動を続けてまいりました。

東口の「オリーブ」はいまだに営業を再開できていませんが、少しずつ再開の可能性が見え始めております。

今期スタートした新たな2つのプロジェクトは、それぞれミーティングを続けながら新しい活動に向けてリーダー、メンバー共に協力しあっています。

このプロジェクトは従来の事業の枠にとらわれず、外部から見た時のほっぷの森のイメージを大きく変えてくれるものと期待しております。

フードマーケットは新たな拠点を見出し、次の10年のための大きな一歩を踏み出してくれると信じています。ほっぷの森カレッジプロジェクトは今までの移行支援事業に加え、自立訓練（生活訓練）の2年と移行支援の2年を通算して4年間を障がいのある人が継続的に一般就労を目指していきます。

そして本人の能力やニーズに応えるプログラムを必ずや提供できるものと大きな期待を寄せています。

昨年も申し上げましたが、私たちがこれまで築いてきた成果の中に新たな意味を見いだすことができるようパートナー、役員一同従来の価値観にとらわれずに各事業所の新たな価値と意味に向かって努力を重ねていきたいと考えております。

今後とも暖かいご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ほっぷの森
理事長 白木 福次郎

2021年度 就労支援センターほっぷ事業報告

はじめに

コロナウイルス感染が収束しない中、活動に工夫をしながら実施した1年間だった。そういう状況でもしっかり就職活動し12名の方が就労（復職）している。残念ながら途中で療養などを理由に利用中止になった方がいたがご家族とも連絡を取りながら状況を確認していきたい。新規相談については病院や自立訓練事業所からが多く、引き続き関係機関とも情報交換しながら進めていきたい。また現在準備している「ほっぷの森カレッジ」の生活訓練事業の役割も大きくなっていくのでしっかり準備を行い周知していきたい。それに伴い職員体制の充実、個々のスキルアップを目指していきたい。

1. 利用者の推移と状況（カッコ内は、2020年度状況）

*別紙「年間実施事業報告」参照

2021年度の月利用者数は14名から18名で推移(14～22名)。出席率は月83.6%～88.9%(74.2%～88.6%)と利用者が少ない中でも出席率は高かった。

新規利用者15名(12名)。うち高次脳機能障害10名(9名)、若年性認知症2名(0名)、精神疾患1名(2名)、発達障害1名(1名)、身体障害1名(0名)、知的障害0名(0名)。紹介元については、病院が6名、障害者福祉センター(自立訓練)が2名、ウェルポート仙台が2名、相談支援事業所が1名、就労したものの離職となった方の再利用者が3名、法人内からの問い合わせが1名となっている。

移行支援事業の基本的な利用期間は2年間であるが、コロナウイルスの影響から就職活動に影響が出ていることから、利用延長申請ができ、2名の方の3ヶ月の利用延長申請を行った。その後、1名は就労開始までの2か月間、1名はトライアル雇用のため9か月間の再延長をしています。

終了者に関しては、16名(13名)が利用終了。内訳は、一般企業への就労は9名(7名)、復職1名(4名)。A型への就労は2名(2名)、再リハビリや療養のために4名が利用を中止している。

就職活動に関して、合同面接会の中止や企業見学、実習の実施が難しいなど、制限がある中でも、12名の方の就労（復職）できた。

利用終了者16名に対して、新規利用者15名。2022年3月の登録者数は17名で目標としていた20～22名は達成できなかった。出席率は1年を通して80%を上回っていたので引き続き新規利用者を増やしていきたい。

2. プログラムの取り組み状況

*別紙「年間実施事業報告」及び回覧「各プログラム事業報告書」参照

継続して実施しているプログラムが多いが登録している利用者や新しい職員体制のなか工夫しながら行っている。特に引き続きコロナ禍ということもあり室内での運動系のプログラムや飲食が伴う活動は気を付けながら実施した。

昨年度、ほっぷの活動を企業向けに発表する機会があり「好きなプログラム」についてアンケートを取ったところ「行事」「先輩会」をあげる方が多かったです。この二つに共通するのが開催日時や準備のための打ち合わせの日程こそ職員が決めますが開催までの準備や当日の進行などは利用している皆さんが担当を決めて主体的に動いていきます。担当ごとに打ち合わせを行い自分たちで作り上げていくプログラムに達成感も大きく感じるものだと思います。他のプログラム、特にセルフトレーニングなど職員から言われて「やらされる」ものではなく自ら「選択する」ものを今後も実施していきたいと思います。

昨年度から健康プログラムの一つとして「ウォーキング」を実施している。60分のプログラム内で帰ってくるができる公園などの目的地を2~3か所設定し、麻痺や体調に合わせて自分で選択してもらい職員と一緒に歩きます。普段、歩かない道を歩くことでリフレッシュできたり歩きながら利用者同士や職員とコミュニケーションを楽しんでいます。継続して実施できればと思います。

今後、予定されている「ほっぷの森カレッジ」を想定して新たなプログラムを実施している。「コミュニケーション術」「表現のプログラム」など内容や取り組み方など今後検討していきたい。

3. 就労に向けての活動状況

*別紙「年間実施事業報告」及び回覧「各プログラム事業報告書」参照

2021年度も引き続きコロナ禍ということもあり感染対策を取りながらの活動になりました。毎年9月に開催される「ふれあいワークフェア（障害者合同面接会、宮城労働局主催）」は中止になり、毎年4月末に開催される「みやぎ障害者合同面接会（宮城県主催）」は延期になり12月に規模を縮小して開催したが周知期間も短く、参加企業も少なかったためほっぷからの参加者はいなかった。2月に「障害者合同面接会ふれあいウィーク」が開催されたが、これも規模縮小での開催だったのでほっぷからの参加者はいなかった。例年であれば今後の仕事選びの参考になるように「雇用の予定がない」企業見学をグループで実施していたが2021年度もコロナウイルス感染拡大防止のためできなかった。

その中でもハローワークの障害者求人から可能な限り個別での見学や実習を行い11名の新規就労に繋がっている。ハローワークインターネットサービスを利用した求人検索や見学や実習を行った方の報告などを「就職に向けて」のなかで行い、仕事の選び方や就労までの流れを一緒に確認しました。

4. 利用終了後のフォローアップ *別紙「年間実施事業報告」参照

2021年4月から2022年3月までの就労者で、一般企業やA型事業所へ就労・復職した方が12名いる。求人検討する段階や見学や実習を行う上で企業担当者とも様々な情報を共有し、就労(復職)が決まった際に、本人(ご家族)・企業に今後のフォローアップ、就労定着支援事業について説明をし、支援の継続を実施。2021年度も就労6ヶ月を経過した4名の方が、就労定着支援事業である『就労定着支援センターほっぷの実』のサービスの利用開始となった。

一方で以前から就労していた方3名が離職し再利用となっている。1名は4年間の就労期間の中で体調を崩し勤務時間を短縮しながら働いていたが企業担当者とも話して離職になっている。(就労定着支援未実施、企業担当者との連絡のみ)1名は受傷前の企業に配置転換を行い復職した方で担当の上司の理解はあったが同僚との関係がうまくいかず離職している。(復職前の連絡調整は行っていたが就労定着支援未実施、復職後は本人との連絡のみ)1名は知り合いの繋がりで見学したが同僚の障害理解がなく、またご家族の対応もあり休むことも多くなり離職している。(就労定着支援未実施、就労後は本人との連絡のみ)今後、働き方の見直しを行い再就職を目指していく(うち1名は再就職済)。

先輩会は年3回の予定であったが、コロナウイルスの状況を見ながら、春夏・秋冬と2回に分けて実施した。全員が集まると人数が多くなりすぎたので春夏は2回に分けて5月29日(土)19名参加、6月22日(土)22名参加だった。それでも人数が多くなったので秋冬は3回に分けて10月23日(土)13名参加、11月20日(土)14名参加、12月11日(土)15名参加だった。各回4~5グループに分かれてトークする形で実施。トーク内容は各グループ発表してもらうことで、全体で情報を共有した。コロナウイルス対策として、発表のしかたや写真はグループごとにし、昼食交流会は行わず解散とした。就労している先輩対象の「先輩新年会」はコロナウイルスの影響で実施しなかった。

5. 家族支援

2021年度は5月29日(土)の先輩会実施後に家族個別面談を実施し6名が参加している。(その他に日程の関係で27日に1名面談実施)6月19日(土)の先輩会実施後に家

族交流会を実施し3名が参加している。父親、母親、妻とそれぞれ立場の違いもあり悩みも異なるが個別の面談も必要だが同じ立場の方と話をする機会も今後作っていききたい。

6. 他機関との連携と研修実績 *別紙「年間実施事業報告」参照

宮城障害者能力開発校委託訓練を前期と後期で募集するも、前期への申込者1名(太白自立訓練利用者)で実施。後期の申込はなかった。期間が決まっている訓練なので周知や募集に難しいところもあるが継続して実施していききたい。

インターンシップ、ボランティア、研修や見学の受け入れに関しては、コロナウイルスの状況から慎重に検討をしながら、仙台ボランティアセンターや東北福祉大学、宮城学院女子大学から受け入れた。

コロナウイルス感染拡大の影響で、他機関との交流や会議に制限はあったが、WEB(Zoom)開催など状況を見ながら参加し、情報交換や交流を図った。また、研修についても開催されたものには参加し、スキルアップに努めた。

引き続き積極的に参加し事業所内で共有していききたい。

就労支援センターほっぷ

サービス管理責任者 貫洞 正一

令和3年度 就労支援センターほっぷ 年間実施事業報告

2022

| | 2021 | 令和3年4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 令和4年1月 | 2月 | 3月 |
|----------------------------------|--|---|--|---|---|---|--|--|--|--|--|--|---|
| 利用終了者状況 →終了後状況 | 3/31終→復職 ・4/1石巻市役所 3/31終→一般就労 ・4/1～仙台南高等学校 ・4/16～鴻池メディカル 終了者(16名) ・一般就労:9名 ・復職:1名 ・A型:2名 ・中止:4名 | 5/14終→一般就労 ・5/17～仙台国税局 5/28終→一般就労 ・6/1～東日本コンクリート 5/29終→一般就労 ・6/1～東北財務局 | 6/30→利用中止(療養活動) | | | | 9/30終→一般就労 ・10/1～東北地方整備局 | *10/31終了予定→1/31まで 利用延長 | 11/30終→一般就労 ・12/1～住宅供給公社 11/1→利用中止(療養) | 12/1→利用中止(療養) 12/28→復職 ・1/5～東京エレクトロン | 1/20→利用中止(リハビリ) 1/31終→A型事業所 2/1～リンクワークス 1/24～エス *トライアル雇用のため利用 延長(最長令和5年1月末) *1/31終了予定→3/31まで利 用予定 | | 3/31終→一般就労 ・4/1～ブルデンシャル生命 ・4/1～仙台市文化事業団 |
| 新規利用人数 紹介元 →利用開始日 (15名) | 2名 ・2日～直接(ほっぷ利用2回 目) ・6日～いずみの社 | 2名 ・17日～東北大学病院 ・25日～長町病院 | 1名 ・3日～直接(ほっぷ利用2回 目) | 2名 ・5日～太白障害者福祉セン ター ・6日～ウエルポート仙台 | | | 2名 ・2日～ウエルポート仙台 ・27日～太白障害者福祉セン ター | 1名 ・13日～直接(ほっぷ利用2回 目) | 1名 ・1日～相談支援事業所梯 | | 1名 ・4日～職業C、東北大学HP | 2名 ・8日～法人内 ・21日～清山会 | 1名 ・3日～東北大学HP |
| 利用数 出席率(平均者数) | 16名→18名 87.2%(15.5名) | 15名→16名→15名 87.2%(13.2名) | 14名→15名 85.4%(12.7名) | 14名→16名 86.7%(13.7名) | 16名 88.2%(14.1名) | 16名→18名 87.8%(15.1名) | 17名→18名 88.9%(15.7名) | 18名 85.0%(15.3名)★ | 16名 88.1%(14.1名) | 16名→15名 85.7%(13.2名) | 16名 87.0%(13.1名) | 17名 83.6%(14.1名) | |
| 月稼働日数(土) | 21日(他土曜日1日) | 18日(他土曜日1日) | 22日(他土曜日1日) | 22日(他土曜日2日) | 18日(他土曜日2日) | 20日(他土曜日1日) | 21日(他土曜日1日) | 20日(他土曜日2日) | 20日(他土曜日1日) | 19日(他土曜日2日) | 18日(他土曜日1日) | 22日(他土曜日2日) | |
| 見学者数 (紹介元) | 2名 ・長町病院 ・東北大学病院 | 2名 ・太白障害者福祉センター ・太白障害者福祉センター | 1名 ・ウエルポート仙台 | 1名 ・宮城障害者職業センター | 2名 ・ウエルポート仙台 ・直接 | 2名 ・相談支援事業所梯 ・仙台リハビリテーション病院 | 3名 ・宮城障害者職業センター ・東北医科薬科大学病院 ・東北大学病院 | 3名 ・相談支援事業所さてら ・ハンズ宮城野 ・法人内 | 2名 ・相談支援事業所どんまいネッ ト ・仙台リハビリテーション病院 | 1名 ・ミツイ職業紹介 | 6名 ・長町HP ・清山会 ・東北大学HP ・直接 ・ハンズ宮城野 ・ハローワーク | 0名 | |
| 体験利用人数 | 3名 ・いずみの社 ・長町病院 ・東北大学病院 | 3名 ・長町病院 ・東北大学病院 ・太白障害者福祉センター | 3名 ・直接 ・太白障害者福祉センター ・ウエルポート仙台 | 0名 | 1名 ・ウエルポート仙台 | 0名 | 1名 ・相談支援事業所梯 | 2名 ・宮城障害者職業センター ・東北医科薬科大学病院 | 1名 ・法人内 | 0名 | 3名 ・清山会 ・東北大学HP ・直接 | 2名 ・直接 ・ハンズ宮城野 | |
| 障害者就職面接会 | 中止 | | | | | | 中止 | | | みやぎ障害者合同面接会 | | 障害者合同面接会ふれあい ウィーク | |
| 模擬面接 | | | | | | | 28日 | | | | | | |
| セミナー・講習会 企業講話 | | | | | | ・障害者雇用促進セミナー (zoom) | | | ・山形県高次脳機能障害リハ ビリテーション講習会(zoom) | | ・宮城高次脳機能障害リハビ リテーション講習会(zoom) | | |
| 企業訪問 | | | | | ・デジタルハーツプラス(オンラ イン企業説明会) | | | | | | | | |
| 個別企業訪問 | ・東日本コンクリート採用 ・ヒカリノミチ仙台長町(A型事 業所) | ・東北財務局→採用 | ・陸上自衛隊菅竹駐屯地 | ・東北地方整備局 | | ・名取自動車整備工場 | ・松月産業 ・東日本リフトサービス | ・東北センコー運輸 ・ブルデンシャル生命 | ・エス ・古川民主病院 | ・リンクワークス ・仙台国税局 ・石巻税務署 ・東北地方整備局河川国道事 務所 | | | |
| 企業(職場)実習 →経過 | ・東京エレクトロン宮城(復職前 実習) ・ヒカリノミチ仙台長町(A型事 業所) | ・東京エレクトロン宮城(復職前 実習) | ・東京エレクトロン宮城(復職前 実習) | ・東北地方整備局→採用 ・東京エレクトロン宮城(復職前 実習) | ・東京エレクトロン宮城(復職前 実習) | ・東京エレクトロン宮城(復職前 実習) | ・東京エレクトロン宮城(復職前 実習) | ・東京エレクトロン宮城(復職前 実習) | ・東北センコー運輸 ・東京エレクトロン宮城(復職前 実習) | ・エス ・リンクワークス ・古川民主病院 | | | |
| 体験実習先 (体験者数) | | | | ・宮城県庁ビジネスアシスタ ント実習 | ・宮城県庁ビジネスアシスタ ント実習 | ・宮城県庁ビジネスアシスタ ント実習 | ・宮城県庁ビジネスアシスタ ント実習 | ・宮城県庁ビジネスアシスタ ント実習 | ・宮城県庁ビジネスアシスタ ント実習 ・仙台市体験実習(泉総合運動 場) | ・宮城県庁ビジネスアシスタ ント実習 | ・宮城県庁ビジネスアシスタ ント実習 | ・宮城県庁ビジネスアシスタ ント実習 | |
| 法人内実習 | | | | | | | | | | | | | |
| ハローワーク活動 | 随時必要時に活動 | | | | | | | | | | | | |
| 先輩会 | | 29日(19名参加) 就労者(一般・A型)対象 | 19日(22名参加) 就労者(一般・A型)対象 | | | | | 23日(13名参加) 就労者(一般・A型)対象 | 20日(14名参加) 就労者(一般・A型)対象 | 11日(15名参加) 就労者(一般・A型)対象 | | | |
| プログラム | グループミーティング(始めのミーティング・終わりのミーティング)、セルフトレーニング | | | | | | | | | | | | |
| (毎日実施) | Bトレ、就職に向けて、メモリーノート、文章理解、文章表現、スポーツコミュニケーション(バタンク・段ボールバスケ、ペットボトルボーリング、卓球他)、ストレッチ、作業と身体 | | | | | | | | | | | | |
| (週1回実施) | コミュニケーションⅡ、殿プロ、姫プロ、仕事について、グループワーク、リズム体操、フロアホッケー | | | | | | | | | | | | |
| (月1回程度実施) | コミュニケーションⅡ、殿プロ、姫プロ、仕事について、グループワーク、リズム体操、フロアホッケー | | | | | | | | | | | | |
| フリープログラム | 4/24(土)5名 | 5/8(土)4名 | 6/12(土)2名 | 7/3(土)5名、31(土)5名 | 8/7(土)5名、21(土)4名 | 9/18(土)3名 | 10/16(土)3名 | 11/6(土)1名、27(土)6名 | 12/18(土) | 1/15(土)4名、29(土)5名 | 2/19(土)5名 | 3/5(土)5名、3/26(土)5名 | |
| (随時実施) | ・春の行事(映画、室内スポー ツ) | ・健康増進センター(zoom) | ・避難訓練 ・栄養管理講座 ・健康増進センター(zoom) | ・健康増進センター(zoom) | ・夏の行事(八木山動物園公 園) ・健康増進センター(zoom) | ・健康増進センター(zoom) | ・健康増進センター ・ITサポートPC個別講習(Word) | ・健康増進センター(zoom) ・栄養管理講座 ・表現のプログラム ・ITサポートPCグループ講習 (Excel、Word) | ・健康増進センター(zoom) ・表現のプログラム ・ITサポートPCグループ講習 (Xmasカード、年賀状) | ・健康増進センター ・健康増進センター(zoom) | | | |
| 家族見学・講習会 | | ・家族個別面談 →27(木)1名、29(土)6名 | ・家族交流会 →19(土)3名 | | | | | | | | | | |
| 研修生 ボランティア等 | | ・東北福祉大学生 ・宮城学院女子大学生 | ・東北福祉大学生 ・宮城学院女子大学生 | ・東北福祉大学生 ・宮城学院女子大学生 | ・東北福祉大学生 ・宮城学院女子大学生 | ・宮城学院女子大学生 | | ・赤門短期大学看護学科教員 | ・赤門短期大学看護学科教員 | ・赤門短期大学看護学科教員 | ・東北福祉大学生 | ・東北福祉大学生 ・宮城学院女子大学生 | |
| 会議、講習会、研修会等 | ・企業連携(zoom) ・東北福祉大学臨床実習指導 者会議(zoom) ・AKG(貫洞) | ・企業連携(zoom) ・AKG(zoom) | ・宮城野自立訓練事業所見学 ・AKG(zoom) ・サポネットあおば | ・太白自立訓練事業所見学 ・企業連携(zoom) ・AKG(zoom) | ・障害者雇用支援連絡協議会 ・障害者雇用促進セミナー (zoom) ・精神保健福祉基礎講座 ・宮城県サービス管理責任者 等基礎研修 ・AKG(zoom) ・就業支援基礎研修 | ・就業支援基礎研修 ・高次脳機能障害支援者ス テップアップ研修 ・AKG(zoom) | ・AKG(zoom) ・障害者雇用ワークショップ | ・精神障害者雇用促進セミナー ・宮城県高次脳機能障害者支 援普及事業第一回専門研修会 (zoom) ・就労移行支援事業所等連絡 会議(zoom) ・宮城野自立訓練事業所見学 会 ・雇用促進セミナー(zoom) | ・障害者虐待防止研修 ・NPO法人全国就労移行支援 事業所連絡協議会設立総会 ・AKG(Zoom) | ・新型コロナウイルス感染症対策研 修会 ・障害福祉サービス事業所等 の応援職員派遣の体制整備に 関する説明会(オンライン) ・障害者の就労定着について 考える ・日本職業リハビリテーション 学会宮城大会のプレ大会@オ ンライン | ・新型コロナウイルス感染症防 止対策について(宮城県看護 協会) ・集団指導(オンライン) | ・集団指導(オンライン) ・令和3年度宮城県高次脳機 能障害者支援普及事業第2回 専門研修会@ZOOM ・令和3年度宮城県高次脳機 能障害者研修事業(地域支援研 修)@オンライン ・令和3年度第3回雇用促進セ ミナー@就支Cオンライン ・第2回事例から学ぶワー クショップ@オンライン | |
| その他 | | | 宮城障害者職業能力開発校委託訓練(6/25～9/24)→1名受講 | | | | | 宮城障害者職業能力開発校委託訓練(10/26～1/25)→応募者なしの為、実施せず | | | | | |

2021年度 就労定着支援センターほっぷの実事業報告

1. 利用者実績状況

2018年(平成30年)10月から開始し、2022年(令和4年)3月末までに24名利用。

2021年度は16名の支援を実施。内訳は、13名が就労支援センターほっぷ、2名がびすた〜り(Olive)、1名が他事業所からとなっている。相談支援事業所が関わっている方は6名。新規利用開始者は4名。3名がほっぷ、1名がOliveからの就労者。他に3名の利用可能の方がいたが、就労先での理解やご本人の安定もあり、定着支援は入れず様子を見ることとし、ほっぷでのフォローアップの中で必要時には利用の相談をしていけるようにしている。

2022年2月に就労継続期間が3年6ヶ月となり、定着支援の利用終了となった方が2名。1名はウエルポート仙台で1名は仙台市障害者就労支援センターに繋いだ。

2. 支援実施状況

昨年度同様、コロナウイルス感染症の影響で、就労先への訪問が出来ない月もあった。特に医療や介護施設への訪問が難しかった。ご本人とは出来るだけ対面での支援が出来るように、ほっぷの実に来ていただいて面談をしたり、勤務時間や就業場所により来ることが難しい方は、勤務先の最寄り駅等での面談を行っている。それでも対面が難しい方には、コロナウイルス感染拡大防止対策措置により、電話等での支援で対応を実施した。

月1回から数回、その方の状況に応じながら支援を実施した。ご本人との面談や就労先の方からの聞き取り、必要に応じてご家族と情報共有し、連携しながら継続した就労に努めた。

2022年3月より支援開始となった方は精神的不調により3ヶ月の休職となり復職の模索や体調の把握のため週1回の面談を実施。

3年間のチャレンジ雇用で就労中の方は2022年3月末で雇用が終了の為、4月以降の新規就労に向けて11月から求職活動支援を実施。障害者就職面接会に参加し4月からの就労が決まり、定着支援を残りの期間内(2022年11月)まで利用できることとなった。

1名は他県へ引っ越し予定があり、現就労先からの理解を得ながら次の就労先の相談を実施。

2022年2月に2名が支援期間終了し、ウエルポート仙台と仙台市障害者就労支援センターに引き継いだ。就労(復職)時に関わっていたこともあり、スムーズに引き継ぐことができた。

就労支援センターほっぷからの就労者に関しては、ご本人やご家族、就労先に最初の6ヵ

月間は就労支援センターほっぷ（移行支援）でのフォローアップ、その後の就労定着支援センターほっぷの実（就労定着）での支援を説明。定着支援導入の有無についての理解はして頂いてはいたが、実施確認や手続き等でスムーズに進まず、支援が7ヵ月目に開始できない方もいた。就労支援センターほっぷでのフォローアップは継続しており就労への影響はなかったが、今後は利用開始時期をスムーズにしていくために、希望の際の前段取りを計画的に取り組んでいく必要を感じた。

3. 他機関との連携

今後も支援期間が終了する方が出てくるので、ご本人の継続した就労につながるよう、日頃から仙台市障害者就労支援センターや障害者就業・生活支援センター、宮城障害者職業センター、相談支援事業所等と情報の共有や相談をし、スムーズな支援の継続のための連携をしていく。

就労定着支援センターほっぷの実
管理者 平山 昭江

2021 年度 TFU Cafeteria Olive 事業報告

TFU Cafeteria Olive

東北福祉大学仙台東口キャンパスコロナ感染拡大防止の為、オリーブは今年も休業。スタッフへの在宅支援を継続しながら、新しい販売スタイルや仕事の仕組みを模索する1年となった。

2021年6月、オリーブの調理場を使い館内教職員に対して予約でのお弁当提供が始まり、WEBフォーマットでの予約をスタートさせた。又、びすた〜りで予約を受けお弁当やオードブルをオリーブで作ることもスタート。オリーブ調理場をセントラルキッチンとして、真空包装した料理を事前準備し、びすた〜りランチタイムでの料理提供をスタートさせた。9月真空包装機を購入。今までフードマーケットに行き、都度料理の真空包装を行っていたが、効率的に衛生的に作業を進めることができるようになった。同じ月に真空包装された料理のネット販売(4種)をスタート(現在8種)。WEB予約システム、パッケージの選定やラベルデザインなど、アートインクルージョンに協力いただいた。12月クリスマスオードブル予約42件、沢山の予約をいただいた。3月宮城県生産活動活性化支援事業補助金を利用し急速冷凍機器を購入。調理後の料理を急速冷凍することで、美味しさや色、栄養価を保ったまま冷凍保存できるようになった。スチームコンベクションで大きく調理、真空包装、急速冷凍という一連のシステムを作ることができた。より美味しく、安定した料理の提供が可能となった。真空料理の湯せん調理の為、スタッフの関われる仕事の幅も広がり、仕込みから盛り付けまで関われる様になった。又、より衛生的に扱うことができ、賞味期限も長く、ロスの軽減に繋がっている。

今後、購入した機器を活用し、より美味しく、安定した食事提供を行っていきたい。

びすた〜り榴ヶ岡

時短営業等も行いながら感染対策を講じながらの営業が続いた。ランチタイム12時前後には満席でお待ちのお客様が出る程沢山のお客様にご利用いただいている。近隣の第四合同庁舎の皆様が多くを占め、オードブルやお弁当予約にも繋がっている。毎日利用のお客様も5〜6名程。会議室利用のお客様も多くなっている。オリーブと料理や人為を連動させることで、忙しくても安定したオペレーションができています。

6月に東北福祉大学のベーゼンドルファーをオリーブに入れ、人数を限定しながらコンサートをスタートさせた。貸切は24件(2件夜の貸切)。ピアノ、音響機器等環境が整っていること、駐車場が広いこと、窓からの景色が良いことなどお客様からの良い評価を得

ている。現在土日のみ貸切が可能。今後コロナの落ち着き次第で貸切も増えてくると思われる。春夏秋冬でメニューを見直し、コース料理も新しくしている。コース料理は利用する方はまだ少ないが、利用した方の満足感は高く、美味しく、華やかで、リーズナブルとの評価をいただいている。さらに料理やサービスを向上させ今後につなげていきたい。

仙台市生産活動拡大支援事業補助金を活用し、コンサートの機材を購入。今後より良い音質でのコンサートが可能となった。併せて古くなったケーブル等を新しく一新した。今後も短い昼休み、びすた〜りでの食事を楽しみに来店いただけるよう目新しさ、わくわく感が伝わる料理の提供を行って行きたい。又、少しずつ伸びつつあるティータイム利用もテイクアウトも含め力を入れて行きたい。

1. 店舗売上

びすた〜り 榴ヶ岡

2021 年度売上 8,811,890 円

TFU Cafeteria Olive

2021 年度売上 3,607,566 円

2. 給付費収入 びすた〜り 榴ヶ岡 TFU Cafeteria Olive

2021 年度 31,555,437 円

3. 助成金・補助金収入 36,027,677 円

雇用調整助成金 2021 年度 25,392,809 円

宮城県生産活動活性化支援事業補助金 400,000 円 (急速冷凍機の購入)

仙台市生産活動拡大支援事業補助金 247,000 円 (音響機器の購入)

仙台市感染症拡大防止協力金、仙台市時短要請等関連事業者支援金 等

TFU Cafeteria Olive

管理者 菊田俊彦

4. 2021年度 スタッフの活動について

2020年4月から始まった東北福祉大学仙台駅東口キャンパス閉館によるレストラン休業が今年度も続いた。昨年同様スタッフたちは基本的に在宅支援サービスを利用しながらそれぞれの目標に向けた活動を続ける1年となった。

<在宅支援>

Oliveでは9:30~16:30の活動。1日のスケジュールに沿ってこちらから提示した課題に取り組む。1日2回朝・夕2回の電話での体調確認や活動内容に関する連絡を行い、緊急時や困った時は随時対応。活動に関しての日報や支援記録の作成。月1回以上の通所で目標の確認や評価を行う。

日々の体調管理や困りごと等をサポートすることで以前と変わらず給付費の請求も可能。

スタッフに合わせたそれぞれの働き方

- 働いてリズムのある生活をしたいスタッフ(12名) → びすた〜り榴ヶ岡で週2~3日程度6~7時間勤務。実際にお客様の顔を見ながら仕事し、充実感と緊張感のある生活を送っている。
- 自分の目標に向き合いながら課題を通して在宅のみで活動をするスタッフ(6名) → 週2~3回、営業再開に向けて「Open準備トレーニング」として実際に通所し1~2時間の作業(調理場内での作業や清掃、食に関する講座、コーヒー焙煎、事務補助、オンライン体操教室への参加)や、面談を行った。いつ営業再開になっても出勤出来るよう体力や集中力を取り戻す目的も兼ねている。
また、びすた〜りでの活動を希望したい場合は、少しずつ慣れながらびすた〜りシフトへ入って行くスタッフもみられた。

Olive 在宅課題の例

食事記録、体力作り(ストレッチ、ウォーキング、運動等)、食材や調理・珈琲の知識・飲食店の知識や食事のマナーについて、自立に向けてのレシピ作り、ほっぷ研修としてほっぷのプログラム参加、就職に向けての活動(ハローワークインターネット検索、ハローワーク活動、一般常識等)、PCテキスト(Excel、Word、PowerPoint)、自分の特性について、指先トレーニング(ハンコ押し、塗り絵、作品作り)、苦手分野の勉強(漢字、数学、書字)、早口言葉、脳トレ等。積極的に動ける方は自主課題としてテーマを決めて取り組む(コーヒーについて、食べ物と飲み

物のペアリング、体幹トレーニング、手話、健康について等)

○専門性を極めたいスタッフ(1名) → 週1日 Olive に出勤しコーヒーの自家焙煎や管理、BGMの構成等を担当。営業中はなかなか進めづらい作業を1日集中して行なっている。

○思い切り体を動かしたいスタッフ(4名) → 月2日程度(6時間勤務)の施設外就労で畑作業を行う。

<施設外就労>

2020年8月より開始。株式会社MITUと契約し、びすた〜りフードマーケットの施設外活動日と併せて行っている。Oliveパートナー1名が同行し2~3名のスタッフが実働3時間程度の畑作業を行っている。堆肥まきなど体力を使う作業や、夏の暑さと戦いながらの畑作業もあり、時給¥500と決して高いわけではないが思い切り体を動かし、レストランの仕事とは違う充実感を得ながら生き生きと作業に取り組んでいる。食材の知識を学んだり、ストレス解消や体力作りの一環にもなっている。

5. 1年間の動き

<4月> 在宅支援、来所でのOpen準備トレーニングとして週1回シェフ達を講師とした講座を実施。(~6月まで)料理についての知識、調理実習、食に関するDVD鑑賞等を行った。在宅支援の取り組みも1年が経過し、新たな動きを取り入れ変化を付けていくことにした。季節の食材を使った調理実習では食材の歴史や文化等にも触れたり、レストランで働く仲間とのチームワーク考えてみたりと普段の営業の中だけでは得られない学びを得た。

<5月> 在宅支援の課題(体力作り)の一環としてフードマーケットで行っている名取市愛島での筍掘りの手伝いを行った。パートナーが1名同行し筍を掘り、採った筍はびすた〜り榴ヶ岡のランチを彩り好評を得た。

<6月~> 6/8より福祉大学東口キャンパス内の職員を対象とした予約制弁当販売開始(日曜・月曜は休み)。¥550(味噌汁付)の日替り弁当販売は1日平均5~10個程度でスタートしたが、看護学生受講日には30個程度の弁当を販売している。11:30~13:00は営業としての時間となり、在宅での活動とは異なるためパートナーのみで対応。スタッフは実践トレーニングとして準備の

みに関わっている。

- <7月> 長い在宅活動の中で体調や精神面でバランスを崩すスタッフも現れた。来所回数や面談を増やしたり、在宅課題の内容を変更しながらサポートしていたが、4月から県外の実家に戻り療養していたスタッフが退職することになり、スタッフ18名→17名になった。
- <8月> 一般就労者 1名（医療法人財団明理会 西仙台病 介護補助）
昨年より就職活動をしていたスタッフの一般就労が決まった。Olive 第1号の卒業生となり、その後6ヵ月間、本人と職場の間に入り定着に向けたサポートを行った。スタッフは16名となった。
- <9月～> 真空機をリースすることになり、今までフードマーケットの機械を借りて行っていたびすた〜りランチメニューの料理の真空作業を Olive 調理場で行えるようになった。袋に定量を入れる作業などスタッフがトレーニングとして関われる作業が増えてきた。
また、びすた〜り榴ヶ岡で真空調理品のネットショップをスタート。梱包用の袋にラベルや両面テープを貼ったり、発送用の商品を詰めたりする作業をスタッフの仕事とした。
- <10月～> 「ほっぷ研修」再開。新型コロナウイルス感染者の増加も落ち着き、以前行っていたほっぷ研修を再開した。プログラムに興味関心のあるスタッフ、動きのある活動を取り入れて行くことが望ましいスタッフが参加した。
<参加したプログラム>
「リズム体操」「姫プログラム」「仕事について」「文章表現」「コロナウイルス感染防止対策講座」等

6. その他

①職員研修

計画に基づき2021年度は職員全員で研修に参加した。オンデマンド配信での研修も多く、今まで参加したことがなかったパート職員も仕事の中で時間を作り学ぶことが出来た。また研修参加の実績が次年度給付費算定スコア表の点数UPに繋がった。

精神保健福祉基礎講座（初任者研修） 2名 2021年8月10日

就業支援基礎研修 1名 2021年8月31日 9月2日、9月3日

| | | |
|------------------------|----|-------------|
| アーチル発達障害基礎講座（オンデマンド配信） | 1名 | 2021年10月11日 |
| 宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会 | 1名 | 2022年1月15日 |
| 高次脳機能障害基礎研修（オンデマンド研修） | 6名 | 2022年2月中 |
| 宮城県高次脳機能障害リハビリテーション講習会 | 2名 | 2022年1月15日 |

②健康診断の実施 2022年1月実施。

今後、生活習慣病につながるような数値の出たスタッフも多く見られた。

結果を念頭に置き、日々の支援の中で気になった時は声掛けしていくきっかけとなった。

③避難訓練の実施 10月実施（東北福祉大学と合同）

④PCR検査の実施 仙台市飲食店向け集中検査（無料）2021年6月～2022年2月

TFU Cafeteria Olive

サービス管理責任者 安斉純子

2021年度 びすた〜りフードマーケット事業報告

2021年度は、4月久しぶりに新卒（いずみ支援学校専攻科）スタッフ1名を迎えて、今まで後輩が居なかったスタッフも、少し先輩気分を味わうことができたスタートだった。

10月には、10年間畑を担当していたパートナーの退職があり、新パートナーを迎えて畑作業とスタッフの支援の引継ぎを行った。スムーズに引継ぎを行えたことで、スタッフも混乱することなく過ごせた。

昨年度同様、コロナウイルス感染防止対策をしながらの生活となり。フードマーケット、JhoJho それぞれ、スタッフが密にならないように、時差を作りながらの活動を心掛けた。出勤前（家庭で）検温、手洗い、マスク、消毒液などの習慣が身に着いたスタッフも多く、定着した。ワクチン接種についても、各家庭、GHなどでスムーズに対応していただいた。ニュースなどで、感染人数を耳にすることが多いことから、行動制限をしながら、家族単位での最小限の動きを心掛け過ごすこともご協力いただけた。

スタッフ1名、仙台市内コロナ感染人数100人を超えた頃から、在宅支援の形を継続的にとっている。

コロナ禍でありながら、JhoJhoは病院様側にご理解いただき、通常通り営業させていただけたことに感謝しながら、スタッフ、パートナーが毎日仕事に取り組むことができた。

それぞれがいろいろな制限がある中我慢したり、体調に気を付けて通所したことで、FMも休むことなく営業できた。スタッフやそれを支えてくださる、ご家族、支援者の方々の協力で感謝しつつ過ごした1年だった。

スタッフの利用状況として、4月に新スタッフ2名を加え、継続利用のスタッフ合わせて23名のスタートとなり。途中退所2名（1名は他のB型事業所、1名は移行支援へのステップアップ）、12月に1名入所し3月末には22名の在籍となった。（下記表参照）

年齢を重ねてきたスタッフ、ご家族が将来の生活という心配事も現実味を増してきており、ショートステイの利用をしながら、模索することが増えた。将来について相談支援と連携しながら今後も考えていきたい。

びすた〜りフードマーケット
サービス管理責任者 伊藤敬子

【2021年度スタッフ在籍数】

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 年平均出勤人数 | |
|-----------|----|------|------|------|--------|-------|------|------|----|------|------|------|---------|-------|
| 入所 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | | 19.96 |
| 退所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 在籍合計 | 23 | 23 | 23 | 23 | 22 | 21 | 21 | 21 | 22 | 22 | 22 | 22 | | |
| 平均利用人数(月) | 19 | 20.9 | 20.8 | 20.2 | 20 | 20.2 | 19.5 | 18.9 | 18 | 17.9 | 18.9 | 18.8 | | |
| 退所内訳 | | | | | 他B型施設へ | 移行支援へ | | | | | | | | |

【2021年度3月末現在年齢別在籍数】

| 年齢 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 男性 | 0 | 6 | 2 | 1 | 4 | 1 | 14 |
| 女性 | 0 | 3 | 2 | 0 | 1 | 1 | 8 |
| 合計 | 0 | 11 | 4 | 2 | 5 | 3 | 22 |

(2022年3月現在)

びすた〜りファーム野菜(野菜、筍、筍ご飯の素)、総菜他売り上げ。

| | 野菜 (店舗、Jho) | たけのこ | 筍ご飯の素 | 惣菜 (店舗、Jho) | デザート (店舗、Jho) | ジャムなど (店舗、Jho) | 漬物 (店舗、Jho) | オードブル他 特別注品 |
|--------|----------------|-------------|---------|----------------|------------------|-------------------|----------------|----------------|
| 2017年度 | ¥469,584 | ¥65,290 | | | | | | |
| 2018年度 | ¥446,765 | ¥235,580 | ¥21,200 | | | | | |
| 2019年度 | ¥373,061 | ¥171,540 | ¥30,400 | | | | | |
| 2020年度 | ¥266,410 | ¥156,090 | ¥48,050 | ¥278,630 | ¥140,600 | ¥37,600 | ¥104,410 | ¥89,000 |
| 2021年度 | ¥361,263 | ¥133,090 | ¥52,330 | ¥214,110 | ¥185,400 | ¥31,750 | ¥57,450 | ¥70,200 |
| 備考 | | 裏年生筍 水煮筍 | | 筍ご飯、冷凍総菜を含む | FM,JhoJho 手作り | ジャム、ソース、ドレッシング | | お弁当 |

1. 畑作業

長年畑に関わったパートナー退職となり、9、10月に引継ぎをし、新パートナーと交代となった。

スタッフの高齢化、コロナ警戒のため長期欠勤のスタッフ等に伴い、畑への参加スタッフ数の減少や、能力面から作業内容に偏りが出てしまう傾向があった。個々に見合った作業内容の工夫や、作業能力の維持に重点を置いて対応した。

機械使用頻度も高くなる為、よりパートナー側の安全管理が必要となっている。スタッフの機械使用は安全管理・理解力上難しい事が多い。また、機械使用に伴い、整備の必要性や保守点検費がかかった、今後は定期的な点検も検討していく。

MITU の施設外就労 1 日（毎週木曜日 11 時～15 時）実施中。MITU 側からの要求も高くなってきて。現状はオリーブとの合同で対応し依頼に応じてはいるが、S の離脱等で要求を満たせない場面もあることは MITU 側にも伝えた。

① 栽培

- ・お客様・調理場から需要がある定番野菜の収穫数は比較的安定。栽培管理の簡略化の為、品種の限定を継続した。
- ・JhoJho からの要望の多いレタスなどの通年収穫が昨年課題であったが、季節毎何度かの休止もあるが定期的に納品は出来た。
- ・戸叶さん：野菜全般（アスパラガス、栗、小豆等）
- ・柳生大家：守屋さん（果樹・葉物）
- ・竹林大家：國分さん（筍）
- ・勝利先生：赤路農園（野菜、果物）
- ・きゅうり農家：山路さん（きゅうり、玉ねぎ）
- ・富田大家：板橋さん（パセリ）
- ・元P：小林さん（野菜）など収穫・入荷させて頂く。又、近隣の畑の方へ声がけ行い、作りすぎた野菜などを適時収穫・入荷させて頂いた。
- ・3月から12月までは各畑作業。1月～3月までは竹林整備。（4月下旬頃から筍収穫裏年）

② 収穫

玉葱・じゃが芋などは問題なく収穫。保管場所なども問題は依然有るも、調理場と連携し収穫・調理のバランスを取りながらできるだけ保管しながら使用した。

大根などの収穫も多く、収穫量の多い野菜は干すなどの加工（例：へそ大根）も行い、無駄のないように使用。その為、残菜量も極端に減少している。

葉物は秋から冬の時期に順調に大量収穫。にんじんもタネの提供があり、たくさん植えたところ、生育よくおいしいニンジンが大量にとれた。ピーマン・唐辛子などは、撒き時期などの遅れにより収穫量が少ない。主な理由としては4月下旬～5月上旬のGWにて畑作業がストップすることにより種蒔・水やりが出来ない事と筍収穫との時期被りが遅れの原因の一つでもある。

また、MITU などからの提供野菜もあり、その際には、大量仕入れとなってしまうことがあるが、調理場・バックヤードと連携を取りながら収穫・販売・加工行った。

季節ものとして、筍、梅、柿の収穫、剪定をし、収穫量を確保し販売につなげた。

2. 店舗

コロナ感染防止のため消毒液の設置、店担当者のマスク着用、店舗ドアを開放し換気をしながら営業を行った。

コンセプト

びすた〜りファームで収穫した農薬化学肥料不使用のおいしい野菜を提供、販売。

① びすた〜りファームでの収穫状況の確認

収穫した野菜を調理用と販売に選別、バックヤード調理場と連携しB品は調理で使用する。

② 店舗担当スタッフ

店舗の掃除、品出し、値付け、検品などお互いに得意なところを担当しながら行った。気持ちの波、仕事への集中力など、様子が変わってきたため、ポイントを知らせながら仕事をお願いした。

③ 外販、移動販売

木、金の引き売り継続して行った。顧客が決まっている為、スタッフも回りやすい、歩きながら購入して下さるお客様もいた。

イベント等はコロナの影響によりすべて中止や不参加だった。（不参加については、外販をすることで多数の方と関わりコロナ感染となった場合、通常の店舗、JhoJhoの営業に支障が出てしまうことが予測されたため）

④ 仕入商品

オーサワ商品

- ・毎月発注し。固定客の方には事前に連絡をして注文を聞くようにした、近くの方には配達を行った。(徒歩や車)

戸叶農園さん

- ・今年度は、直接受け取りに行く形となった、色麻町のため、なるべく売れ筋の物やお米、豆などを仕入れた。

赤路農園さん

- ・畑を手伝いながら、季節物として、青梅、柿などお知り合いから譲っていただきながら販売につなげた。

赤路農園さんと戸叶さんはなるべく同じ日に対応できるようにした。

⑤ 季節の商品

- ・筍は裏年だったが、目当てのお客様が定着し、水煮、たけのこご飯の素として安定して売れた。
- ・梅は、柳生だけでは足りず、赤路農園お知り合いより仕入れた、梅干し、梅ジャム、梅ジュースの加工でも販売したり JhoJho のメニューに入れて提供した。
- ・柿は、柳生、赤路農園お知り合いより仕入れ、干し柿用として販売したり、干し柿、干し柿チップとして手軽に食べられるサイズにして販売し好評だった。
- ・セリはコロナの影響や農家さんの畑の関係もあり、仕入は全くできず、残念だった。

3. フードマーケット、JhoJho 厨房

①提供料理、惣菜について

ジョジョのランチで提供される料理の中で真空冷凍保存できるハンバーグや鯖味噌煮をフードマーケットの店頭でも販売。少しずつではあるが気に入ってもらえたお客様のリピートが増えた。ジョジョの方ではランチメニューに添えた漬物やドレッシングの購入を希望する声もあり販売品目に加えた。惣菜の中で筍ご飯の素は5月に集中して250食ほど作り冷凍保存することで年間を通して販売できるようになった。

ジョジョのランチメニューについては和洋中にこだわらずご飯に合う料理を取り入れているが、昨年より魚ランチの提供数が伸びているのは魚の種類が増えた事、彩りや

香辛料で工夫を続けた成果だと思う。

②調理作業とスタッフの作業

フード内の調理場ではパートナー3名、スタッフ2名（1名は週1日）が1年を通して仕事できたことでそれぞれの役割分担が明確になり安定した作業ができるようになった。ハサップの記録をスタッフの仕事として取り入れたところ、責任感を持って毎日欠かさず行っている様子が見られた。スタッフの作業分担も調理場2名と2階のスタッフそれぞれの得意不得意に合わせて仕事を作ることで効率化を測れるようになった。ただ、調理作業に追われる面もあり店舗全体の整理整頓が行き届いていない部分もあり今後の課題である。

③売上向上とコスト削減への取り組み

食材から消耗品に至るまで様々なものが値上がりをしているためコスト管理にはこれまで以上に気を使っている。ランチメニューの内容によっては肉、魚の主材料の量を減らす代わりに料理が貧弱にならないように畑の野菜を加えてボリュームを出す工夫をした。また店頭での売上向上の取り組みで助成金を利用して焼き芋器を購入したが納品が3月末でサツマイモの収穫時期も終わっていたためこれを利用しての売上は次期に期待したい。

4. バックヤード

1名が新規利用を開始したが、その他のスタッフは長年バックヤード作業をしているため、ある程度勝手もわかってきている。階段の上り下りに関しても、自分で買い物がかを準備して危険のないように降りるなど自発的に行えている。

作業の際の準備、片づけ（椅子の片づけ、机の移動、ビニールシートの準備など）も極力スタッフが自主的に進めるように心がけた。自発的に動くことが難しいスタッフに対しては最低限の声かけ、重いものを持つのが難しいスタッフには机拭きやシートたたみなどスタッフの特徴に合わせた作業を行うようにした。

① 収穫、仕入れた野菜・・・選別、計量、袋詰め、値札貼り付け作業など、スタッフを分担して作業を行った。

選別は大まかな選別から細かい選別まで、スタッフの能力に応じて流れ作業で担当してもらい、最終的にパートナーが最終チェックを行うよう心掛けた。

計量の重さが分かりづらいスタッフに関しては範囲を指定し、その数字をメモ用紙に記入して同じ数字になるように声がけした。計量後に何をするかなど自分で把握しており、袋、値札などを自分で準備することが出来ていた。その為、パートナーに声がけする際も「何をすればよいか？」という受け身の問いかけから「～をしてもよいか？」や「値札はこれでいいか？」などスタッフから提案するような質問が増えてきた。自分から発信することが増えてきていることを評価しつつ、独断で進めてしまわぬよう、「ほう・れん・そう」が出来るように今後支援していきたい。

袋詰めに関してはニラなどばらけてしまうものが袋からはみ出て終わりにしている時もある為、今後も新聞で包みながら入れるなど練習していき、きれいな仕上がりになるようにしていく。

※セリ

今年度は販売用のセリは入荷しなかった。また、いな穂用のセリも三浦ファームで選別済みのものを受け取り、そのまま届けるのみ。いな穂への納品もマージンを取らずに届けているので、三浦Fへ受け取りに行くガソリン代がそのまま負担となっていた。そのため白菜などの少量の野菜を仕入れさせてもらい、なんとか粗利を捻出した。セリの時期は他の野菜も収穫量が落ち、二階の仕事があまりなかったため、翌年度以降も同じような状況が続くようであれば内職などの他の作業も検討していく必要がある。

② JhoJho 食材用野菜の下処理

野菜の皮むき、セリの根っこ切り等。選別や計量よりも好きなスタッフが多く、積極的に引き受けてくれた。必要な道具なども準備し、すぐに取り掛かることが出来ていた。今後の課題として、どうしても時間を気にせずマイペースで進めてしまうことが多いので、締め切りの時間に間に合うように取り組めるような支援を考えていきたい。

③ 内職作業・・・今年度はなし。セリの入荷がない場合や収穫の谷間の時期などに行えるよう、検討していく。

④ フェルト手芸（野菜や亀のストラップ）刺し子布巾、個々の得意な分野での作業として取り組む

→今年度は得意なスタッフがあまりいない、その他の作業があったためほとんど行わなかった。

⑤ 袋の作成

収穫物が多い時期などにはまとまった量を作れないため、野菜の作業が少ない時期に作りためをしておく。工程の最後まで折ることが難しいスタッフには工程を分け、途中の簡単な折り作業までを担当してもらうようにした。スタッフ毎に得意な工程があるため、それを活かして効率よく作っていくことができた。また、JhoJho の売店で使用する紙袋作りも並行して行った。わら半紙がなくなった為、こちらも新聞紙を使い貼り合わせたりするなど普通の袋より工程が増えるため、手分けして行った。

⑥ その他

- ・地震対策…年度末にあった強い地震の後、二階の備品など耐震補強を行った。常日頃から災害が起こった際の動き方などをスタッフと話したり、行動して備えていく。
- ・作付け用の種まき…今年度はなし
- ・外冷蔵庫掃除、駐車場草取り…ほぼ毎月、定期的を実施。

5. C a f e J h o J h o

今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、継続して営業を続けることができた。

感染者数が一桁台を継続する時期もあったが席数は減らしたまま営業し、感染防止対策をしっかりと行った。

感染防止対策としては前年度同様アルコール消毒設置（入り口、持ち帰りカウンター、ホール中央）、席数を減らしテーブル配置の変更、ごはん・味噌汁のセルフサービスの廃止、対面シールド設置、お客さま入れ替えごとのテーブル・椅子の消毒、伝票記入用鉛筆の消毒、出入り口取っ手の消毒、空気清浄加湿器設置、換気、マスク無しでの会話を控えるよう掲示と呼びかけを行った。休憩室も席数を減らし同時入室人数を調整、対面シールド設置、消毒液の設置、空気清浄加湿器設置、食事中以外のマスク着用の徹底を行った。更衣室利用も複数人での使用を禁止とし、適時消毒作業を行った。

検温は、自宅と JhoJho での検温をお願いし表に記入するほか、朝礼時にパートナーが検温し体調の確認を行った。

作業後の休憩室での密も避けるように時差退勤をした。

① 利用状況

時短営業がなかった分、4月と5月の売り上げは前年度より上がっているが全体的な利用状況としては前年度と大きく変わることはなかった。

しかしながら前年度同様、感染防止対策での席数減や作業内容によりランチタイムは忙しく動き回る日も多かった。

繁忙時間は店内入り口も混みあうため、席が空いていても覗いて帰ってしまうお客様もいた。お席があることを伝えに行くことや、ジェスチャーすることにより帰らずに店内に入ってお食事をしていただくことが出来た。

また、新規のお客様が店舗外で入店を迷っている様子の時には、店内にランチ見本があることをお伝えし「見るだけでもどうぞ。」と声を掛けに行くことで新規客の獲得と継続利用に繋がった。

お席待ちのお客様に関しては、事前に注文を取ることで席に着いたらすぐに提供されることが浸透してきたのでお待ちいただけることが増えた。

アレルギーがあるお客様や糖質制限をしているお客様に他メニューのお食事を準備したり、ごはんの代わりにサラダを付けるなどお客様が離れないよう柔軟な対応を行った。

今年度はデザートにチーズケーキを加え、常時3種類から選べるようにした。デザートは前年度に比べコンスタントにご注文いただけた。

売店利用は、はなみずき入居者様の常連客が増えた。ごはんの共になるような漬物・梅干しや、焼き芋、チーズ、駄菓子、パックジュースの購入が多かった。

中には前日に購入したことを忘れてしまうお客様もおり、メモを書きお渡ししたり、JhoJhoにもメモを残しトラブルにならないよう心掛けた。

また、口の中に入れた手で商品を触ってしまうお客様もおり、パートナーが付きっ切りになってしまう時もあるため特に繁忙時間帯にご来店いただくと混乱してしまうこともあり他のお客様への対応がおろそかになり苦情にならないよう努めた。

② スタッフの状況

9月末に週3日勤務で調理場作業を行っていたスタッフ1名が退所し、移行支援事業所に入所した。前年度秋頃より移動支援に行かなくてはとの気持ちの焦りがあり体調を崩してしまうことがあったが時間をかけて見学や体験を経て移動支援へと繋がった。

FMから週に3日1時間の助っ人に来ていたホールスタッフが11月から毎週火曜日

のみ JhoJho でフル出勤になった。

3月末現在、毎日出勤のスタッフが4名、週4出勤のスタッフが1名、週3出勤のスタッフが1名、FMからの助っ人スタッフ1名増え5名である。

精神障害をお持ちのスタッフは1年を通して不調が続き、欠勤や早退、出勤してみたものの食事を摂るのみで作業は難しく帰宅（病院へ行く）することが続いた。2月は1か月ほどまとめてゆっくりお休みしたいとの希望で欠勤した。

調理場スタッフは不調が気になりながらもほぼ休まずに出勤出来たが作業としては出来ていたことが難しくなったり時間がかかるようになった。

スタッフ配置状況

| | ホールフル | 調理場フル | パントリー洗い物 12時～15時 | FM助っ人 12時～13時 |
|---|-------|-------|---------------------|------------------|
| 月 | 3 | 2 | 1 | 1 |
| 火 | 3 | 2 | | 2 |
| 水 | 3 | 2 | | 2 |
| 木 | 3 | 2 | 1 | 3 |
| 金 | 3 | 2 | 1 | 1 |

安定して通所出来るスタッフ、目標日数通りに出勤がまだ難しいスタッフ、体調の変化があり休憩をするスタッフがいる中、任せられる仕事を増やせるように新しい作業にも挑戦した。一人ひとりしっかり力を付けることができた。出来る事が増えたことで負荷がかからないように繁忙時間帯以外は自分のペースで休憩の回数・時間を決めて無理のないように過ごしている。

JhoJho 在籍スタッフ一人ひとりの作業量増加やスピードアップは現状をキープすることが目標になって来た。

また、週5日通うことが出来ない方、精神的な部分で体調が安定しない方もおり、FMのスタッフ・パートナーの力を借りなければ難しい現状は変わらない。

「現在パートナーが行っている作業をスタッフにお願いするためには作業能力の高さを求めなければならず、作業能力が高く B 型に通所される方は安定して通うことが難しい傾向にあった。

では、作業の細分化を図り複数人で行おうと思うと人数が多くなり、パーソナルスペースが必要なスタッフが混乱してしまった。」と前年度報告しているが、傾向

が変わることはなく、パーソナルスペースが必要なスタッフに関してはよりパーソナルスペースが広がっていている。

JhoJho スタッフの増員は、特に欠員がでている調理場の増員が急務であり、見学や体験も行ったが、入所に至らなかった。

今年度も FM からの助っ人に頼る一年であった。

③ ホール・パントリー

お肉とお魚はご飯・味噌汁がお盆に載った状態の配膳はホールスタッフ 1 名のみ配膳を任ているが、JhoJho セットも配膳できるようになったが、荷物が多いお客様やテーブルが狭い場合などはパートナーが配膳した。

他スタッフは、水をテーブルに置くときに倒してしまったりとまだまだ全てが載った重いお盆を運んでもらうのは不安だった。

ご飯・味噌汁のお替りのお客様へ丸お盆でお持ちすることは 1 年をかけて練習し任せられるようにはなったが不安がある時にすぐにフォローできるように近くまで一緒に行き声掛けを行った。

パントリーでの洗い物は、担当のスタッフが休みの時はパートナーとホールスタッフで手分けをして作業している。

オーダー読み・食事出しとドリンク・デザート出しの作業は今年度もパートナーが行ったが、場合によっては直接調理場に伝票を渡したり、調理場から直接お盆を受け取って配膳したりと出来ることが増えた。

外を歩くことでリフレッシュできる方にはフードマーケットに行って野菜や売店販売商品を持って来てもらう。

座って文字を書いたり色を塗ることが好きな方には、伝票の色塗りや値札切りなど。一つの作業の継続が難しい方には何種類かの作業を準備し選びながら作業してもらうことは継続して行った。

④ 調理場

メニューは変更なく、毎日日替わりの肉、魚セット 500 円、定番として、カレーライス、う～めん 450 円、う～めんダブル 500 円を提供している。

ランチ前の時間にご利用いただける「鶏がゆ」と「トーストセット」は多くは出ないが楽しみに来てくれるお客様もいた。

単品でのご注文や、ソースなし、汁を薄めて、酢を付けて、細かく切って…など対応できる範囲でお答えすることが継続してできている。

ごはんと味噌汁をよそう作業は、ご飯の量の指示が細かく味噌汁も多めの注文や、おかわりもあるため対応力とスピードが求められ、スタッフには難しくパートナーが対応している。

準備、盛り付け、計数、片付けなど一日の作業をスタッフが行えるようになったためお任せしているが、最終確認はパートナーが行った。

メイン料理の盛り付けでは、個包装になっているものはスタッフ1人でも盛り付けが出来た。

大袋で計量しながらの作業は、種類が一つだと計量しながら盛り付けることが可能だが、複数種類が入っていると肉だけや野菜だけのように偏ってしまうため難しかったためFMと相談しながら出来るだけスタッフが作業出来るようにした。

スタッフの仕事として野菜の皮むきやカット作業をFMと連携しながら用意できるようにした。

また、味噌汁の具材作りなども行うようになった。

衛生面に関しては、手洗い・消毒の習慣が出来てきており作業途中の声掛けでも出来るようになったが、洗い方はパートナーがからの声掛けがないと指先を水に触れさせるのみで終わらせてしまう。

同じ皿や箸を使ってしまうため、使い終わったものを置く場所を明確にして使い回しをしないように徹底した。

HACCPの記録をスタッフの仕事にすることで衛生面を意識し気を付けていけるようにした。

6. 年間行事

皆が集まって行う行事はコロナウィルスの状況もあり控えた。

- ・季節の行事・・・カレーを食べよう！！（8月） 芋煮を食べよう！！（11月）
お餅を食べよう！！（1月）
- ・支援計画面談・・・年間各スタッフ2回ずつ行った。
- ・検便・・・・・・・4月、10月（年2回）
- ・避難訓練・・・・火災、地震、水害（コロナ禍のため、全員で避難する形をとらず少人数で長町小学校まで歩く）

2021年度びすた〜リフードマーケット売上

| 2021年度売上 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|---------|------------|
| フードマーケット店舗 | 273,474 | 310,683 | 262,776 | 215,498 | 211,354 | 174,924 | 234,529 | 262,658 | 239,967 | 174,508 | 159,810 | 240,331 | 2,760,512 |
| JhoJho | 757,520 | 653,900 | 805,270 | 759,060 | 673,668 | 700,256 | 692,590 | 710,038 | 742,110 | 682,072 | 656,090 | 611,687 | 8,444,261 |
| 特別販売(弁当、オードブル) | 0 | 13,000 | 0 | 6,000 | 0 | 8,000 | 20,000 | 10,000 | 0 | 0 | 0 | 7,000 | 64,000 |
| 特別販売(瑞宝、灯籠流し、AI) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 63,114 | 25,688 | 17,265 | 29,090 | 28,942 | 94,284 | 75,160 | 66,950 | 47,540 | 13,580 | 6,300 | 13,300 | 481,213 |
| 売上 | 1,030,994 | 1,003,271 | 1,068,046 | 1,009,648 | 885,022 | 977,464 | 1,022,279 | 1,049,646 | 1,029,617 | 856,580 | 815,900 | 872,318 | 11,749,986 |

| 売上 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 2020年度売上 | 904,050 | 746,594 | 1,070,741 | 1,029,023 | 956,892 | 1,036,655 | 1,176,422 | 888,736 | 1,245,429 | 1,055,310 | 943,200 | 1,195,283 | 12,248,335 |
| 2019年度売上 | 1,280,120 | 1,226,510 | 1,057,114 | 1,163,654 | 998,410 | 1,020,873 | 1,162,190 | 1,150,115 | 1,366,556 | 964,232 | 1,054,548 | 1,043,030 | 13,487,552 |
| 2018年度売上 | 1,288,145 | 1,311,765 | 1,198,609 | 1,249,020 | 1,101,410 | 1,049,020 | 1,259,746 | 1,338,939 | 1,303,829 | 1,168,781 | 1,155,866 | 1,149,101 | 14,574,231 |
| 2017年度売上 | 1,393,775 | 1,477,460 | 1,841,061 | 1,326,755 | 1,312,464 | 1,412,374 | 1,327,227 | 1,442,425 | 1,622,800 | 1,258,370 | 1,193,030 | 1,311,799 | 16,919,540 |

令和3年度 相談支援センターほっぷの木事業報告

状況について

更新月の関係で、毎月の更新・モニタリング数に波はあるが、安定した件数を継続して対応することができている。令和3年度は新規利用が1件あり、これまでの延べ人数（ファイル数）が90件になった。また、障害福祉サービスを終了した方が1名いるので、実際に計画作成を対応している件数は71件となっている。内訳は法人内件数17件（ほっぷ・ほっぷの実2件、びすた〜りフードマーケット9件、cafeteria olive・びすた〜り榴ヶ岡6件）その他外部の事業所が54件となっている。

本人・ご家族の高齢化に伴いサービス事業所の変更やサービスの追加。またA型からB型、B型から生活介護のようにサービスの種類の変更を行うケースが増えてきている。また、介護保険サービスとの併用や介護保険サービスへの移行等、地域包括支援センターや居宅介護支援センターとの連携も密に行っている。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、在宅勤務を取り入れながら支援を行った年でもあった。訪問や面談を無理に行わず、電話やメール・郵送など様々な方法で対応を行った。今現在落ち着いてきてはいるが、ご希望を確認しながら対応している。

1. 件数

上記の通り、サービス終了の方を除き71件のモニタリング面談と報告、更新に伴う利用計画案の作成を行っている。月にすると、少ない月で20件程度。多い月で30件程度対応している。必要に応じて計画作成以外の面談や通院・役所同行も対応しているので、毎月予定している面談回数よりも対応面談数は多くなる。計画に関わらない面談時には、各事業所に訪問して『サービス提供時モニタリング加算』（上限39件）を請求したり、その他複数回面談した時等の加算を都度請求している。

※給付費に関して別紙参照。

2. 相談内容

今年度は今までと少し変わって、昨年度から引き続きB型から生活介護へ移行するケースを2件対応した。今後もこのようなケースが出てくることを想定しているので、丁寧な対応をしていく必要がある。

コロナ禍において、余暇活動の制限があり、移動支援等利用できない状況が続いている。少しずつ緩和してきてはいるが、閉鎖した事業所も少なくないので、新たに事業所

を探すところから対応していかなければならない。

その他、ご家族の入院や入居で、突然一人暮らしになった方や独居の方への計画相談以外での細やかな対応を行っている。

介護保険と併用、または介護保険への切り替えのケースも増えてきているので、引継ぎ等を丁寧に行っている。

現時点で新規の計画相談に対応することは難しくなっているが、毎月のように新規の問い合わせは来ている状況なので、お話を聞いた上で、すぐには対応できないことをお伝えし、他の相談支援事業所につないでいけるよう対応している。

3. 他機関との連携

担当件数のうち7割以上の方が法人外の方になっているので、細やかに連絡を取らせて頂き普段から情報共有を行っている。訪問時はその月の対象者だけではなく、自分が関わっている利用者の方々にもできるだけお会いできるよう調整して頂き、少しの時間でも様子を確認できるようにしている。

事業所と平行して、外来通院や入院等考えられる方に関しては、通院先の相談員の方や主治医とも情報共有するようにしている。

介護保険サービス事業者との連携も大切になってきており、本人の高齢化だけでなく、ご家族の高齢化に伴い、多方面から生活環境を整える必要がある場合もあるので、地域包括支援センター等に相談させて頂くことが増えている。

その他行政や金銭管理サービス・後見人等、関わっていただいている機関とはしっかり連携が取れるよう顔合わせを行い、電話連絡やその他書面でやり取りしている。

4. 会議・研修について

昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度も会議等の開催があまりなく参加する機会も少なかった。WEBでの会議等もあったが、訪問の合間に参加することが難しく参加できなかったものも多い。色々な関係機関の方々とお話する機会のありがたみを改めて感じた。今後も機会があれば相談支援の『質の向上』のため、仙台市障害者自立支援協議会や各区自立支援協議会のネットワーク会議や研修に積極的に参加していく。各種会議等では特に計画作成の手法や各種サービスの活用法を学び相談者への対応に活かしている。その際コロナ禍ではあるが、参加者との交流を行い『横のつながり』をしっかりと作り、今後の支援につないでいけたらと思う。

また今年度は相談支援専門員継続に必要な現任研修にも参加し、スキルアップを行っ

ている。今後主任研修等も参加していけるように準備していく。

相談支援センターほっぷの木

相談支援専門員 針生里美